見る 会う 語る

アジアの友だちプログラム part2

未来のグローバル・リーダーを育てるアジア生徒交流プログラム

太田 弘（普通部教諭）

テーマ

本プロジェクトは 2006年度からインターネットを用いたテレビ会議による授業交流から始まり、2007年度には、テレビ会議に加えて、実際に「見る、会う、語る」という視点で交流を深めることができた。本年度は、2007年に引き続き、タイ国、王立プリンセス・チュラボーン・カレッジ(ナコン・シマラート市、以下PCCと表記)との交流事業をさらに一歩、発展させることができた。

３月にはタイ国から相手校のPCC の教員、学生11名を日本に招き、総合交流を果たし、また、義塾側も学生、教員による２度目のタイ訪問を実施することができた。

これは本プロジェクトの目ざす未来を背負う青年の交流の姿として、お互いの国で日々の生活から国と文化、現代的課題を共有するという原体験を実現できた。

実施状況

2008 年６月７日　タイ国　PCC 校とのテレビ会議の実施。
　　国土交通省「地球地図フォーラム」テーマは「地球環境の変化と温暖化」
同　９月　　日本側プロジェクト担当教員によるタイ国訪問、打ち合わせ
同　９月から 12 月
　　テレビ会議を用いて PCC との授業及び、訪問日程等の打ち合わせ
　　10 月、PCC の訪日、義塾側の 12月タイ訪問
同　10 月　　PCC 校の訪日延期、12月の義塾側のタイ訪問への参加者募集開始
同　11 月　　タイ国内での紛争激化(首相府占拠、国際空港占拠事件発生)
同　12 月　　12月の義塾側のタイ訪問延期を決定
同　12 月　　日本側プロジェクト教員によるタイ内政状況の調査

2009 年１月から２月
　　テレビ会議を用いた PCC との交流プランの再協議
同　１月　　タイ国 PCC の訪日プランの決定　国内受け入れプランの作成
同　２月　　在タイ国日本大使館への PCC 教員・学生のビザ申請必要書類の作成・送付
同　３月　　在タイ国日本大使館の PCC 訪問ビザ発給
同　３月 16 日から 20 日
　　タイ国 PCC 学生・教員来日(11 名)
同　３月 20 日から 25 日
　　義塾側のタイ訪問(６名)

成 果

２年目となった本プロジェクトの１年は、タイ国の政情に翻弄される１年であったと思う。この数年のタイ国内で起こった一連のタイ国内での政局の混乱が、義塾の学生のタイ訪問において最も懸念された。実際にタイ国内のプロジェクト関係者とTV会議システムで緊密に連絡を取り合うことにより、かなりの精度でタイの情勢を知ることができたが、今回の訪問は、まさに混乱の間隙を突いて辛うじて実施できたと言うことができよう。一連のTV会議を経て、実際に訪問し合い、対話し、相手の生活を日常視点から見ることが出来たのは日・タイの草の根の連携の成果であろう。

今回は、相互の政治情勢を考慮し、いかに安全に国境を越え、海を渡り、かの地を実際に訪れることの難しさ、障壁、困難さを十分に経験した年であったと思う。

展 望

日本国内のいくつかの学校で、こうしたインターネットによるテレビ会議システムを用い、地球規模の国際理解と称される学習が実験的に実施されている。しかし、途上国であるアジア、アフリカ地域との交流の事例は極めて少ない。さらに実際に相手国まで訪問し、日常の生活の中で相手側の国を訪問し、理解する事例は皆無と言ってよいだろう。まさに「未来先導的なプロジェクト」であったと言えよう。

現在、タイの国内には 1,000社を越える日系企業が活動していると言う。我が国の企業、特に電気、自動車などの機械を中心に食品、生活必需品に至るまで多くの日本製品がタイ人の生活の隅々まで浸透している。現地に赴くと、日系企業広告看板があちこちに見られ、多くの日系企業の工場も建設され、沢山のタイ人が働き、日本との関係を否が応でも知ることになる。現地にも日本人学校があり、多くの小中学生が日本の教育システムの下で学んでいる。今後、現代、そして将来においも最も関係の深い繋がりを持つ地域、アジアの同世代間の本当の意味での顔の見える、言葉の交わせられる交流を目ざして実施してきた先駆的なプロジェクトであると言える。